

電子写真機變愛

第四夜

ワイドから超望遠までごっそり撮れるよ25倍ズーム！
さあG3 Xで幸せの青い鳥をお撮り！

製品写真/油科康司(WPP)

しっかりと握れるグリップ部分がカメラホールドをより確かに。全体的にすっきりとしたカメラらしいデザインで必要な操作はすべて直感的に行えるボタン、ダイヤル配置となっており電源を入れてカメラを構えれば自然と背面モニターで撮影姿勢に入るようなレイアウト。「最近のデジカメはファインダーまで断捨離しやがって、まるで中身を見ずに望筒ごと捨てちゃうようなものだ、だいたいカメラってのはなあ…」とお嘆きの紳士のためにオプションの電子ビューファインダー「EVF-DC1」もご用意しました。いまなら初回5000台限定の電子ファインダーがセットになった「PowerShot G3 X EVF KIT」もやりますのでぜひそちらをご利用ください。目で映像を確認しオデコでカメラを支えつつ両手で掴んで引き寄せて構えるほうが手ブレに強いはず。それではG3 Xを撮影に連れ出してみましょう。

こんな写真に變をする




望遠側600ミリ

超望遠レンズの本領発揮なシーンです。被写体が小型の動物の場合、ちょっと遠いかなと思ったらもう大抵の望遠ズームでは遠すぎるのですが、このG3 Xならば600ミリが余裕で被写体と幸せを引き寄せます。フィールドでの活躍を期待したいG3 Xならではの機能がバッキンと段合わせ構造による防塵防滴構造。小雨程度の荒天ならば撮影続行可。そして60pフルハイビジョン動画で高精細な望遠動画撮影も可能。つまり、お子さんの運動会などの記録にベストなカメラと言えましょう。



撮影データ
絞り:F8.0(オート)
シャッター速度:1/1250(オート)
撮影感度ISO:800
撮影モード:スポーツモード

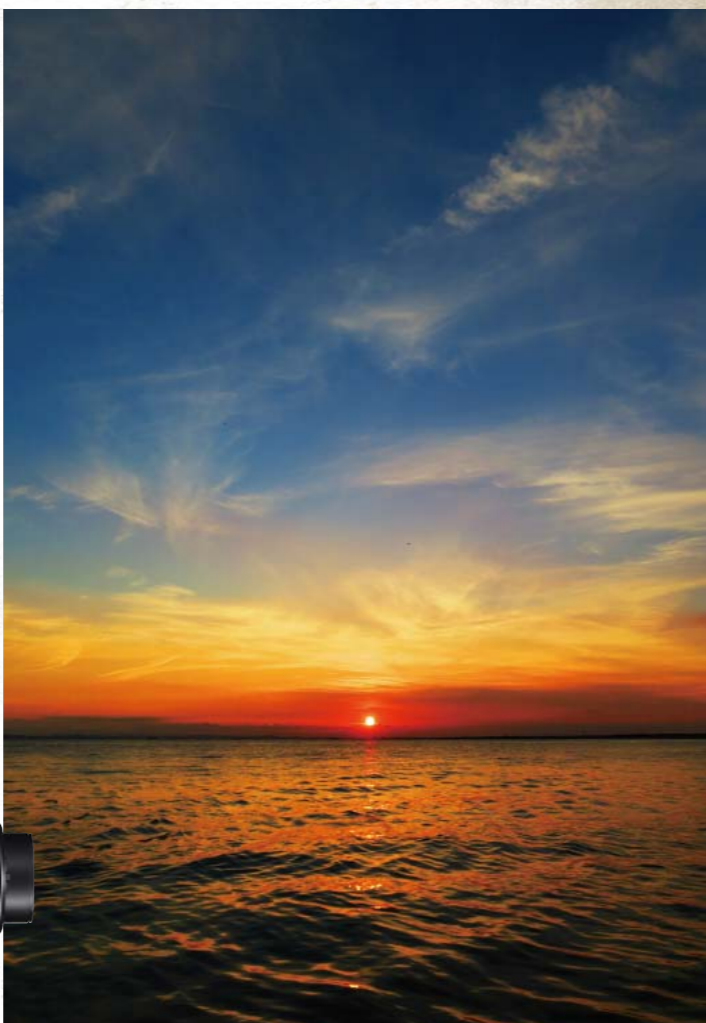
写真と文 **織本知之**
燃費は3オンバーに引けを取らず、トラックなど狭くまに引き離された砂上の楼閣のような走行安定性だった愛車のぼんごジムニーでしたが、それでもやはり長年の愛車が……が、新しいクルマに乗り換えた瞬間……ま、オトコなんてそんなもんです。オトコなんてしゃばん玉。



広角側24ミリ

画面隅々までシャープな描写力と、色彩の諧調といい、これまさにコンパクトデジカメとしては大型の1.0型CMOSセンサーとパワフルな映像エンジン。そして光学テクノロジーがぎゅっ詰まった超高倍率ズームレンズのお陰さまであります。つい望遠側600ミリばかりに目が向かう25倍ズームですが、しっかりと描写力を持つ24ミリ側もぜひご利用ください。

撮影データ
絞り:F4.0(オート)
シャッター速度:1/800(オート)
撮影感度ISO:160
撮影モード:プログラムオート



操作性は？

コンパクトカメラとしてみると大きい、一眼レフと比べてみるとさして大きくはないボディの右側に集中して配置されたモードダイヤルに電子ダイヤル、そして間違えようのない露出補正ダイヤルが

素晴らしく使いやすい。このへんをシンプルにしすぎると、かえってなんだかよく分からなくなるときがあるので、これくらい個別の機能をダイヤルに割り振っておいてくれたほうが直感で扱える。液晶モニターのタッチパネルのレスポンスも鋭く、最近のスマホに慣れた我がナメケ指でも滑らかに操作できたのはラッキー。フォーカスからシャッターまでお触りでOK。

ココに惚れた！

600ミリからさらにプログレッシブファインズームを使用しますとさらに倍、およそ1200ミリ相当の画角で撮影することが可能です。高速な処理性能を備えたDIGIC 6の映像エンジンにより高解像低ノイズで解像感を保ったまま撮影することが可能なんです。これだけアップで撮れると理屈抜きで楽しいです。バッテリーの残量さえ問題なければフィールドで望遠鏡の代わりにも使えると思います。



なんとと言っても25倍



UDレンズに非球面レンズなど日本の光学技術の粋を13群18枚に収めるとまあこれくらいにはなるよなあ、という主張具合のズームレンズを装着。ただし、レンズ交換式で24ミリから600ミリまでカバーして絞りをF2.8からF5.6に収めようとしたら到底このサイズでは取まらない。それに加え、3.5段分の強力な光学手ブレ補正機構を組み込んであるのだから、それを思えばこの景色だけで通なら2杯は呑めますな。

さらにドン。

夕日の写真を撮影した位置から望遠側600ミリで撮影すると昭和育ちなら「太陽にほえる！」を思わずにいられない落日。レンズ交換無しでこのワイドレンジを撮影可能なのであるから堪らない。オモシロすぎてワイド撮ったらとにかくズームアップ、望遠撮っちゃあズームワイドとレンズをいったりきたりさせるだけでいいおかし。山の端、いと近こうなりたるに。



キヤノン

PowerShot G3 X EVF KIT

(初回5000台限定)



有効2020万画素1型センサー搭載
35ミリ判換算24-600mm F2.8-5.6ズームレンズ搭載
EOS 70Dレベルの防塵防滴構造採用 (EVFは防塵防滴非対応)
162万ドット上下チルト式タッチパネル液晶モニター搭載

プロカメラマンまで広く対応されるように設計されているようですね。ええ、プロ写真家が言うから間違いございませんことよ。なお、背面の162万ドットのタッチパネルモニターはペロロと上に180度回転するので自撮りもOK、おっと馬鹿にそんなよこれはこれで楽しいですぞ。メニュー画面は馴染みのEOSとほぼ同じで非常にわかりやすく扱います。さらにユーザー思いのパワーショット開発部門は被写体を見失いがちな高倍率ズームの弱点をカバーする機能として「フレイミングアシスト」を搭載。超望遠で被写体を見失ったときにレンズ側面のボタンで一時的にズーム倍率を下げることで視野角を確保し再発見に努めよう。そうそう。また、被写体を一定のサイズに保つよう自動でズームイン・アウトを行う「オートズーム」機能も搭載。多機能はまだまだ続きます。「星空夜景」「星空軌跡」「星空インターバル動画」などの撮影モードを使うとコンデジでは難しかった天体撮影もOK。念のためいっておきますが、このへんの撮影はプロだつて難しいから。恥を忍んで言うって俺出来ないから天体撮影。このようにまるで仕組みをほとんど説明できないけどとにかく凄いやテクノロジーがみっちり詰まってるのであります。

先日、愛車が29万キロの大往生を迎えたオリモトです。こんにちは。これまで5台ほど4WDオフロード車を使い継ぎ、四駆あらずんばクルマにあらざる、クルマは「駆動切替レバー」と「クラクション」さえあればOKという姿勢を貫いていたのですが、この度盛大に日和ましてカワフイFF車に乗り換え。ハンドルの横に一輪押しなんか付いちゃってこういうのも悪くないモノですな……と、たまには違う味を楽しむのも趣があつてオーライかと。また、カメラもレンズ交換とゴツついペンタ部は絶対だ！なんて思っていた時期もありましたが、最近はそのままでかわらなくてもいいかな、と。なんなら一体型ボディで気おけない撮影を楽しむのもいいのではないかと。そう考えていた矢先、あつたらいいなをキヤノンがカタチにしました。このPowerShot G3シリーズの16代目は超高倍率ズームレンズと防塵防滴ボディで、より遅くなって登場しました。正直でかい。ただー！約2020万画素1型CMOSセンサー、35ミリ判換算24ミリから600ミリの25倍ズームレンズは高倍率での収差を補正するためにさまざまなUDレンズ、Hi-UDレンズ、非球面レンズで武装し、手ブレ補正は新たに2群駆動にて3.5段分の効果を発揮。これで本体質量約690gは軽いものでありますぞ。手に取りますれば一眼レフのような重量バランスで、小ぶりながら